\mathbb{R}^n 上の内積

内積の公理と、正規直交基底の内積をもとに、 \mathbb{R}^n 上の内積を作ることができる。

まず、任意のベクトル ${\pmb a}, {\pmb b} \in \mathbb{R}^n$ を、正規直交基底の一次結合として表そう。

$$oldsymbol{a} = a_1 oldsymbol{e}_1 + \dots + a_n oldsymbol{e}_n = \sum_{i=1}^n a_i oldsymbol{e}_i$$
 $oldsymbol{b} = b_1 oldsymbol{e}_1 + \dots + b_n oldsymbol{e}_n = \sum_{j=1}^n b_j oldsymbol{e}_j$

これらの内積を、双線形性を使って展開していく。

まず、和に関する双線形性より、「足してから内積を計算」と「内積を計算 してから足す」は同じ結果になるので、シグマ記号 ∑ を内積の外に出すこ とができる。

また、スカラー倍に関する双線形性より、定数 a_i , b_j も内積の外に出すことができる。

$$egin{aligned} (oldsymbol{a},oldsymbol{b}) &= \left(\sum_{i=1}^n a_i oldsymbol{e}_i, \sum_{j=1}^n b_j oldsymbol{e}_j
ight) \ &= \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^n a_i b_j (oldsymbol{e}_i,oldsymbol{e}_j) \end{aligned}$$

正規直交基底の内積 (e_i, e_j) はクロネッカーのデルタ δ_{ij} で表せるので、次のように書き換えられる。

$$egin{align} oldsymbol{(a,b)} &= \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^n a_i b_j (oldsymbol{e}_i, oldsymbol{e}_j) \ &= \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^n a_i b_j \delta_{ij} \ \end{aligned}$$

ここで、 δ_{ij} は $i \neq j$ のとき 0 になるので、i = j の項しか残らない。

$$egin{align} (oldsymbol{a},oldsymbol{b}) &= \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^n a_i b_j \delta_{ij} \ &= \sum_{i=1}^n a_i b_i \delta_{ii} \end{aligned}$$

 δ_{ii} は常に 1 なので、最終的に次のような式が得られる。

$$(\boldsymbol{a}, \boldsymbol{b}) = \sum_{i=1}^n a_i b_i$$

 $m{c}$ \mathbb{R}^n 上の内積 $m{a}=(a_i)_{i=1}^n, m{b}=(b_i)_{i=1}^n \in \mathbb{R}^n$ に対して、

$$(\boldsymbol{a}, \boldsymbol{b}) = \sum_{i=1}^n a_i b_i$$

を \mathbb{R}^n 上の内積と呼ぶ。

数ベクトルの同じ位置にある数どうしをかけ算して、それらを足し合わせる、という形になっている。

\mathbb{R}^n 上の内積の性質

逆に、このように定義した \mathbb{R}^n 上の内積が、内積の公理を満たしていることを確認してみよう。

ref: 行列と行列式の基 礎 p76

 \mathbf{t} \mathbb{R}^n 上の内積の双線形性 \mathbf{u} , \mathbf{v} , \mathbf{u}_1 , \mathbf{u}_2 , \mathbf{v}_1 , \mathbf{v}_2 \in \mathbb{R}^n , $c \in \mathbb{R}$ に対して、以下が成立する

i.
$$({m u}_1 + {m u}_2, {m v}) = ({m u}_1, {m v}) + ({m u}_2, {m v})$$

ii.
$$(c\boldsymbol{u}, \boldsymbol{v}) = c(\boldsymbol{u}, \boldsymbol{v})$$

iii.
$$(\boldsymbol{u}, \boldsymbol{v}_1 + \boldsymbol{v}_2) = (\boldsymbol{u}, \boldsymbol{v}_1) + (\boldsymbol{u}, \boldsymbol{v}_2)$$

iv.
$$(\boldsymbol{u}, c\boldsymbol{v}) = c(\boldsymbol{u}, \boldsymbol{v})$$

証明

行列のかけ算と和に関する分配法則、行列のスカラー倍についての 性質から従う ■

 $\boldsymbol{\psi}$ \mathbb{R}^n 上の内積の対称性 $\boldsymbol{u}, \boldsymbol{v} \in \mathbb{R}^n$ に対して、次が成り立つ

$$(\boldsymbol{u}, \boldsymbol{v}) = (\boldsymbol{v}, \boldsymbol{u})$$

☎ 証明

実数同士の乗算は可換であることから、 \mathbb{R}^n 上の内積の定義により

$$(oldsymbol{u},oldsymbol{v}) = \sum_{i=1}^n u_i v_i = \sum_{i=1}^n v_i u_i = (oldsymbol{v},oldsymbol{u})$$

となり、明らかに成り立つ

$$(\boldsymbol{u}, \boldsymbol{u}) \geq 0$$

であり、 $\mathbf{u} = \mathbf{0}$ のときに限り、等号が成立する

証明

内積の定義より、

$$(\boldsymbol{u}, \boldsymbol{u}) = \sum_{i=1}^n u_i^2 \geq 0$$

である

ここで現れた u_i^2 は、 u_i が 0 のときに限り 0 になるので、 ${m u}={m 0}$ のときに限り、等号が成立する